

# 鹿児島市清掃事業審議会

## 「家庭ごみの有料化」に関する各委員の意見 まとめ

### <目次>

- (1) 家庭ごみの有料化に対しどのように考えていらっしゃいますか。
  - ・ 有料化の必要性を感じる理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 P
  - ・ 有料化の必要性を感じない理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 P
  - ・ 意見・留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 P
  
- (2) どのごみを有料化の対象とすべきでしょうか・・・・・・・・・・・・ 5 P
  
- (3) どの料金体系を採用すべきでしょうか・・・・・・・・・・・・・・ 5 P
  
- (4) どの程度の料金水準（1ℓあたり）とすべきでしょうか・・・・・・・・ 6 P
  
- (5) 手数料の徴収方法と種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 P
  
- (6) 手数料の減免や、有料化の対象外とすべきと考えるものに○をつけてください・・・・・・・・ 7 P
  
- (7) 実施すべきと考える併用施策に○をつけてください。  
また、その中でも特に行うべきものがありましたらご記入ください・・・・・・・・ 7 P
  
- (8) 市民の合意形成について、特に力を入れるべき方法や対象等・・・・・・・・ 8 P
  
- (9) その他、家庭ごみの有料化に限らず、ごみ減量施策全般につきましてご意見ありましたら  
ご記入ください・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 P

(1) 家庭ごみの有料化に対しどのように考えていらっしゃいますか。

○ 有料化の必要性を感じる理由

【井上会長】 ごみの減量化を進めるためには、残された有力な方法と考えられる。

【瀬戸山委員】 鹿児島市のごみはいろいろな袋で無造作に出され、分別の徹底もされていないように思う。有料化すると市民の金銭的な負担は大きく、反対する声も多いと思うが、他都市在住時の経験からして、いざ制度が始まればできるだけ袋を使わないよう、ごみ減量に努める。

また、ステーションの美化にもつながる。鹿児島市は観光都市でもあるので、是非有料化を導入すべきと考える。

【吉見委員】 ネガティブインセンティブを付加することにより、減量化に資すると考えられるから。

【岩元委員】 ごみ削減に向けた施策はある程度進んでいるが、目標に向けもう一段階レベルをあげる必要がある。

【赤崎委員】 有料化導入は市が収入を得るためのものではなく、あくまでもごみ減量化のため。そのためには市民の意識を変え、ごみの減量に取り組んでもらう必要がある。

また、排出量の多寡に関わらず無料で収集処分されている現状に不公平さを感じる。排出量に応じた費用負担とし、公平性が保たれるようすべきである。

【榎本委員】 一般廃棄物処理基本計画に定めた目標値の達成や、最終処理場の延命及びリサイクル推進のためには、家庭ごみの減量効果があり、資源物の分別意識も高まる家庭ごみ有料化導入の必要性を感じる。

【藤安委員】 ごみを減量化するには市民の意識付けが大事であり、有料化は有効である。自分で使用したものの処分費用を自己負担することは、基本的健全な道徳心のある人にとっては別に問題ないのではないかと。何でも行政に頼るのはいかがなものか。

【鬼塚委員】 私たちが生きて行く中で生まれるごみを、責任を持って最後まで見届けた方がより人間らしいと思う。行政が無料で事業を行うのを当たり前と思うのは、おかしいと思う。周辺自治体なども有料化になっており、鹿児島市も遅ればせながら、実現化に向けて進めていくべきだ。

【三原委員】 減少傾向にあったごみ量が、近年、横ばい状況にあるということは、市民の減量への意識が薄らいでいるということではないか。減量化をどうしても進めなければならない状況になる前に、市民意識を再度向上させるには有料化しかないと考える。

【有馬委員】 家庭ごみの有料化は、埋立処分場の長期確保、家庭ごみに対する市民の意識改革、分別によるごみの減量化・資源化、鹿児島市の美化に資すると考える。

【内委員】 関心をもってごみ処理に取り組んでもらえるようになるため、ごみの減量につながる。また、運搬、処理、処分、人件費などの経緯削減と負担の公平性につながる。

【向段委員】 鹿児島市のごみ処分場は、まだ余裕があるらしいが、このまま排出量が削減されないままでは困るというならば、家庭ごみの有料化は有効な施策だと思う。これまでより負担が増えるのであれば、ごみ袋1枚からでも削減しようと取り組んでいこう。

【大前委員】 現時点で早急に必要という意味ではなく、将来的には必ず処分場の逼迫問題が生じると推察することから、必要性を感じるという立場をとる。ここで問題となるのは有料化の時

期であるが、これについては明確な意見を持ち合わせない。処分場に関する正確な情報を持ち合わせないからである。

しかしながら、有料化を進めることによって市民のごみ減量意識（＝費用負担を自己の努力によって軽減しようという意識）が高揚すれば、あくまで可能性の話だが、ごみ減量（減容）と家計負担の軽減（特に燃えるごみの減量によるごみ袋負担額の減少）が両立する可能性があると考えている。どのようにすれば特に燃やせるごみの減量（減容）が実現するのか、そのノウハウを適切に市民に提供することにより、「ごみ袋代金の負担上昇率」を超える「燃やせるゴミの減容率」の実現を目指すのである。これは理想論に過ぎるとしても、市民が努力さえすれば過度な家計負担は回避できると予測している。とすれば、処分場逼迫を待つまでもなく、早期に導入しようとも考える。

#### ○ 有料化の必要性を感じない理由

【柳井田委員】今のごみ収集システムのままでは、スムーズな有料化導入は難しいと思われる。

ごみの出し方は、町内会等でも色々な問題を抱えていると聞く。それらは、立川市のように戸別収集制度も併せて実施すれば解決可能かもしれないが、鹿児島市の人口から考えるとそれは難しい。

しかし、有料化によって住民の負担が生じるなら、何らかの方法でそれらが解決できる方向へ持って行ってほしい。

市民全員の合意を得るのは難しいと思われるので、有料化に踏み切るのであれば、有料化でよかったと思える時期で進めてほしい。

有料化もごみ減量の一つの手段であると考えるが、消費者の意識が変わらないと有料化にも“慣れ”が生じてくるのではないだろうか。

## ○ 意見・留意点

- 【井上会長】導入に際しては、市民目線に立って慎重にかつ配慮に満ちた対策を取ってほしい。景気が上向かない地方社会において、経済的弱者にとっては厳しい施策になる。  
手数料収入の使い方はあくまでもごみ減量化に資する市民サービスに充てることを第一に考えてほしい。経済的弱者や高齢者対策は必要。
- 【瀬戸山委員】有料化には市民の同意が不可欠である。説明会などでは、しっかりとビジョンをもち、手数料収入の活用法を明確にして多くの市民に同意してもらえるよう努めてほしい。  
資源物は、統一の袋を手数料の上乗せなしで配布するのが望ましい。
- 【吉見委員】排出者個人・家庭にとって、有料化は単なる税負担増としか映らない。そこで、確実に投入（有料負担金－有料化コスト）は増えるので、この分を排出者・家庭が納得する用途に使うようにすべき。  
もともと、ごみ減量化議論の出発点はコストバランスの問題である。つまり、ごみ処理に要するコスト（＝税金）が、排出者側にとって納得できる水準であれば不満はない。しかし、収集者（＝市当局）側の税込不足等の事情でこれが崩れると、不満は発生・増大する。  
このたび、リサイクル重視から「資源循環」へと大きな変革の節目を迎えた。これは、ごみを「資源」ととらえ、より有効で有益なもの（例：バイオガス）に転換する段階に入ることである。これが十分に徹底されると、ごみは「より付加価値の大きい資源（電力）への原料」と位置付けられ、減量よりも、むしろ発生増がコストバランス上は望ましいことになる。
- 【岩元委員】1. 市民のコンセンサス形成に努力すること、2. 負担の軽減に努めること、3. 集めた手数料の使われ方の透明性を確保すること
- 【赤崎委員】有料化による収入のうち、運営費用を除いた残りは適切な使途を考え、有料化制度への理解を深める方策を考えることが大切である。町内会等に還元するのもよい。  
減免措置の対象については、他都市の事例を検討しながら十分に配慮する必要がある。
- 【榎本委員】合意形成を得るためには非常に厳しい道のりだが、最善の努力が必要である。
- 【藤安委員】有料化で得た収益金は出来るだけ環境整備に活用して頂きたい。街がきれいになると更にごみは減るのではないかと？
- 【赤星委員】ごみ減量に取り組んでいる人への共感は得られると思うが、学生や一時的滞在者などへの周知徹底が難しそうだと感じる。「検討したが、実施する予定はない」とならないため、説明が大切だ。
- 【鬼塚委員】鹿児島市民60万人全員に受け入れてもらえるのは難しい。より最小のリスクで行けたらよい。
- 【三原委員】ごみ減量化に対し、工夫や市民が積極的に取り組むような姿勢が見られ、ごみ減少につながっていくようであれば、早急に導入しなくても良い。減量化への意識を高められる材料、また、事業者ごみの減量化も考えなければならないのではないかと。  
必要性をわかりやすく説明し、市民の理解・納得を得られる理由を示せるかも大事。
- 【有馬委員】現在、一部の地方都市では自前の埋立処分場がなく、近隣にごみ処分を依頼している状態にある。鹿児島市は、数十年間は大丈夫との事だが、先のことはわからない。将来の

鹿児島市民のために、少しでも長く処分場を維持することが大事ではないだろうか。ごみ有料化により市民に多少の負担はあるが、ごみの減量化・再資源化のため、責任をもって分別すれば、ごみ袋負担額も少なくなるのではないか。自分たちの町は自分たちで守らねばいけない。

【向 段 委 員】中核市でも有料化を実施していない都市があり、有料化を進めていいのか、正直迷うところである。自分たちが排出するごみに対する市民の意識を変える方策が、本当は最も必要なのかもしれない。

【大 前 委 員】燃やせるごみ減容化のノウハウを十分に提供すること。これにより、市民自らの努力によって家計負担を軽減できる可能性を用意することとなる。

また、市民の努力によってはどうしてもない領域を把握し、市がフレームワークを整備することも重要である。有料化のターゲットは主として燃やせるごみだと思われるが、もちろんながら資源物も減量（減容）すれば家計負担は軽減できる。しかしながら、例えば食品トレーは形が様々で、ごみ袋内部のほとんどは空気だということにもなりかねない。これを解消するには事業者の協力が必要であり、例えば「できる限り積み重ねやすいトレーの形状を採用するよう事業者に努力をしてもらう」「店頭でのトレー回収を義務づける」などの仕組みを整えることによって、市民の努力が費用負担減につながる道を用意できるようになる。

「市民が努力をすればどんなリターンを受けることができるのか、金額で測定できるように見える化する」ことが必要であると考えます。

環境保全は時として盲目的な従順を求めがち。「地球が危ないから行動してください、行動して当たり前時代です、意識を変えてください」というアプローチのみで全市民の行動を変容できると考えることは不適切であり、傲慢だとすら感じる。人という存在は多様であり、個々人の価値観も同様で、「もう環境、環境とうるさくいわないでくれ」という市民がいたとしても、それを認める、理解する姿勢を持つべきだと思う。

地球環境問題は「今」という視点だけで捉えられるものではなく、高い不確実性を伴いつつ「将来」を捉える必要がある。人という存在は将来を正確に把握し、理解することは到底できない。この人の限界を補完する方法を考えないと、多くのことが無理矢理になってしまう。

できる限り金銭的な見える化を進めることが必要で、迂回的可能性かもしれないが、多くの市民の行動を変容するにはむしろ近道とすら思っている。

【柳井田委員】鹿児島市がごみ減量の目的で実施するとした場合、指定ごみ袋を作る費用はどれだけかかるのか、どこに作らせるのか、販売した小売店への手数料をどこから出すのか。今後人口が減少していくことが予想されることも踏まえ、お金の収支を透明化してほしい。また、黒字になった時、プールされるのではなく、いずれ無料化することもあるのか明確にしてほしい。

(2) どのごみを有料化の対象とすべきでしょうか

	もやせるごみ	もやせないごみ	資源物	意見
A : <u>9</u> 人	○	○		・分別推進と資源化率向上の観点から、資源物は有料化すべきでない。
B : 3人	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ごみ資源」を「他のより付加価値の高い資源」に転換できるまでの中間過程に於いては、あらゆる「ごみ資源」を有料化対象とし、その収益は「より付加価値の高い資源化」に努めるための経費とすべき。</li> <li>・対象外を増やしすぎるとシステムが複雑になり、わかりにくくなるような印象はある。おそらく有料化の手法としては指定ごみ袋制を採用すると思われるが、どのような分別を求めているのかを象徴するためにも、排出量の多いごみはすべて対象にして良いのではないか（指定ごみ袋が分かっているなら、それが求められる分別を象徴している）。</li> </ul>
C : 1人	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源物も有料化すると分別意識が低下しごみ排出量が増加すると思われる。</li> <li>・対象が多いと市民に混乱を招く恐れと経済的負担、透明性に疑問が生じますので、種類は少ない方が良いと思われる。</li> </ul>

(3) どの料金体系を採用すべきでしょうか

① 排出量単純比例型	<u>12</u> 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純でわかりやすい</li> <li>・他の方式では一定量を把握する、業務が煩雑になると思われる。</li> </ul>
② 排出量多段階比例型	1人	・システムはシンプルであるべき。
③ 一定量無料型	1人	

(4) どの程度の料金水準（1ℓあたり）とすべきでしょうか

もやせるごみ	0.5円： <u>5人</u> 0.8円：1人 1.0円： <u>5人</u> 1.5円：1人 十分な判断材料なし：1人	<p><u>【もやせるごみ・もやせないごみを1.0円とする委員】</u></p> 県内の他市平均0.5円から考えると高いが、ある程度丈夫な袋を作ればコストもかかる。この水準であれば分別もしっかりして袋を小さく、あまり使わないようにという心理が働くと思う。
もやせないごみ	0.5円： <u>5人</u> 0.8円：1人 1.0円：2人 2.0円：3人 十分な判断材料なし・不明：2人	<p><u>【もやせるごみ・もやせないごみを0.5円とする委員】</u></p> ・ごみステーション収集であれば、袋の原価+αくらいで良いと思う。戸別収集にするのであれば別。 ・鹿児島県内の平均単価が0.5円であり、それを参考にしても良いと思う。
資源物	0.5円： <u>2人</u> 0.8円：1人 十分な判断材料なし：1人	<p><u>【十分な判断材料なしとする委員】</u></p> 現時点では判断できないが、1円は高い水準だと思う。 <p><u>【資源物も有料とすべき委員】</u></p> ビンや空缶は容積があるので単価を減らす方がよい。

(5) 手数料の徴収方法と種類

徴収方法	指定袋（全員）
種類	<p><b>【最小】</b> 4ℓ：1人、5ℓ：3人、10ℓ：<u>8人</u>  <b>【最大】</b> 40ℓ：2人、45ℓ：<u>9人</u>、50ℓ：1人                      3種類程度：1人、4種類程度：<u>7人</u>、5種類程度：4人</p>

- ・ 指定袋は1ℓあたり手数料が分かりやすく、収集運搬時も一目でわかり作業効率が良い。
- ・ 指定袋の利点が多いので、他都市も指定袋を採用しているのだと思う。種類が多いと製造・販売・保管が大変なので、4種類くらいでいいと思う。
- ・ ごみが減少していくことや少人数の世帯も考慮し、5種類ぐらい必要かと思う。

(6) 手数料の減免や、有料化の対象外とすべきと考えるものに○をつけてください

生活保護世帯	9人	紙おむつを使用する世帯	11人 (内、高齢者に限る1人)	ストーマ、腹膜透析等を利用している世帯	11人
町内会等実施のボランティア清掃等 で出るごみ	7人	枯葉・落ち葉 剪定枝	5人		

- ・ (減免等を実施する必要とする委員) 減免等を考慮すると限りなく実施しなくてはならず、管理等も困惑すると思われるので、全て平等で良いと思われる。
- ・ (紙おむつを使用する世帯の減免は高齢者に限るとする委員) 子育て世帯には手当て等があるのではないか

(7) 実施すべきと考える併用施策に○をつけてください。また、その中でも特に行うべきものがありましたらご記入ください

減量方法の啓発	12人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっとTVや新聞などを活用した啓発を</li> <li>・ 例を挙げて取り組みやすく広報を</li> <li>・ 53g減量の推進</li> </ul>
違反ごみ対策	12人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 違反の多いマンション世帯などについては、岡山市のように管理会社と収集業者が直接契約し、町内会などの負担を減らしては</li> <li>・ ごみステーションにおける早朝啓発、外国人向け説明会など</li> <li>・ 時間をたっぷりかけて、対策を練り、長い目で講じるべき</li> <li>・ 地域見回りの方を増やす(委託する)</li> </ul>
収集サービスの拡充	10人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ できる範囲内で</li> <li>・ 戸別収集の検討も必要。個人責任が徹底される。</li> <li>・ 高齢者等、ごみをごみステーションまで運ぶのが困難な方への支援員等の配置。ボランティア収集サービス</li> <li>・ ごみ出しに苦勞している山間部の方達へのサービス</li> </ul>
補助金の拡充	6人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア清掃等への補助</li> </ul>
その他	2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ回収時間の短縮</li> <li>・ ごみステーションの改善</li> <li>・ 過剰包装対策、マイバッグ推進へのインセンティブ付与等、発生源を抑制する策</li> </ul>

**(8) 市民の合意形成について、特に力を入れるべき方法や対象等**

- ・ メディアを使った広報・啓発。地方のTV番組での特集など、CMだけでなくテレビ広報
- ・ 丁寧な住民説明会。北九州市のように参加者1人でもきちんと説明するという姿勢で取り組んで欲しい。
- ・ 世帯類型・人数別でのごみ排出量コンクール（上位入賞者の表彰・公表）
- ・ 市民一人一人まで浸透するように住民説明会を開催し、情報提供を行うことが必要。広報活動も、テレビCM、新聞広告、パンフレットの全戸配布、ホームページの活用などを行い、浸透を図る事が重要。
- ・ 小学生から、高齢者のお達者クラブ、外国からの日本語学習者など、家族全員への説明会。
- ・ 有料化に賛成・反対、色々な方がいると思うが、ごみの分別や減量の素晴らしさを言葉に出来たらいいと思う。
- ・ 住民への説明会など情報提供を細部にわたるまで行って欲しい。町内会の行事などの前に時間をもらえれば、子ども達から高齢者まで、説明が行きわたるのではないか。
- ・ パンフレットの全戸配布。1回ではなく何回となく。
- ・ 市民が気づくよう、関心もてるよう、新聞・テレビでの周知、わかりやすい図での説明

**(9) その他、家庭ごみの有料化に限らず、ごみ減量施策全般につきましてご意見ありましたらご記入ください。**

- ・ 北九州市のエコキャラクター「ていたん」のように、市民に愛されるマスコットキャラクターを鹿児島でも活用してごみ減量対策を行ったらいいと思う。今の「ストッピー」と「さくりん」をもっと周知させるようにするか、新たに公募で市民に考えてもらって、そのキャラクターを活用したごみ減量施策を行ったらよい。
- ・ 市役所全体で古紙を再使用した名刺を使うなど、ごみ減量化施策に積極的取り組み、鹿児島市がごみ減量化に力を入れていることをより積極的にアピールすべき。
- ・ 私の環境・エネルギーに対するモットーは「LCA（ライフサイクルアセスメント）」である。物を買うということは、その物の製造等にかけられたエネルギーも購入しているということである。一方で、その物がごみとなり、処分する際にもエネルギーが使われている。エネルギーには限りがあり、無料ではない。ということから、同じエネルギーを使う以上、家庭ごみの有料化はいずれ必要となってくるのではないかと思う。  
また、お金、エネルギーには限りがあるので、「LCA」とともに、3Rの「リデュース」が最も大事ではないかとも思っている。特に、今の大量消費の中で考えてほしいのが“食品ロス”である。
- ・ 1日53gの減量は、生ごみをひとしぼりすれば、十分達成できると思うので、水切りの大切さをもっとアピールしてもらいたい。
- ・ 有料化導入となれば、いろいろな意見も出てくると思う。どうして有料化しなければならないかという説明を、市民にどこまでできるのか、また理解していただけるのか。非常に大きな努力が必要だと思う。
- ・ 町内会加入者には会合等で、ごみの減量化や分別違反などについて話をする機会がありますが、それ以外の方への説明に苦勞する。そういう方達への対応も考えてもらいたい。市が転入者に

告げている「近くのごみSTをご利用ください」という案内を、「町内会へご相談ください」にかえるだけで加入者は増えると思う。

- ・ 災害が起こったりすると、ごみの搬出の問題などで考えさせられるが、日にちがたてばまたいつもの日常生活に戻っていきます。自分たちに危機せまるものがある時、自分にとって有意義な時は、率先して行動します。でもそうでなければ他人事である。
- ・ 「ごみ減量化」について、どれだけの人が関心をもっているだろうか。今後、「ごみ減量化」に関心をもってもらえるよう努力することが必要だと思う。まず、「ごみ搬出量削減」の必要性を多くの人に知ってもらえるよう、有名な人の協力を仰ぐとか、わかりやすい映像などを使用するとかごみ減量化を楽しくできる方法の伝授など。義務ではなく率先して行動できるよう促す策があればいいと思う。